

水稻のコブノメイガの発生に注意してください！

岡山県病害虫防除所の7月27日～28日の巡回調査によると、コブノメイガの発生圃場率は35.6%で、平年(9.6%)より高く、県内で広く被害が確認されています。また、赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～6半旬の成虫誘殺数は、35頭で平年(2.6頭)より多く、今後、本虫の増殖に好適な高温乾燥条件が続くと、被害が拡大するおそれがあります。

現時点では、被害程度は軽微な圃場が多いですが、現地圃場で本虫(図1、2)及び被害葉(図3)が例年より多く見られる場合には、防除対策を実施してください。



図1 成虫
(7～9mm)



図2 幼虫(老齢)
(14～18mm)



図3 被害葉
(葉の食害痕)



図4 4回目の世代によると考えられる坪枯状の被害状況
(トビイロウンカによる坪枯と異なり上位葉の食害により白く見える)

<防除上の参考事項>

- 1 コブノメイガは日本で越冬できず、梅雨期に梅雨前線に向かって吹く強い南西風に乗って中国大陸から飛来してくるため、日本での発生量は年次変動が大きい。本虫は通常、年3回程度世代交代を繰り返し、葉を食害する(図3)。さらに、秋期に高温乾燥条件が続くと4回目の世代が出現して、坪枯状の被害(図4)を呈し、特に4回目の世代が止葉を加害すると、収量及び品質が低下する。
- 2 薬剤による防除は、被害が拡大してからでは防除効果が劣るため、圃場内をよく観察し、本虫の発生や被害が目立つようであれば、トレボンEW、トレボン乳剤、トレボン粉剤DL、Mr. ジョーカーEW、Mr. ジョーカー粉剤DLなどで遅れないように防除する。
- 3 肥料が効いた葉色が濃い稲ほど被害が大きい傾向にあるため、そういった圃場では、特に発生状況に留意する。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

